

## 令和7年度活動状況

令和7年度の主な活動として「大規模自然災害に対する防災・減災講演会」および「2026 海域港湾空港技術報告会（第13回）」を開催しました。

### 1. 大規模自然災害に対する防災・減災講演会の開催

近年、能登半島地震の発生や日向灘沖において M7.1 の地震が発生し、南海トラフ起源の地震臨時情報が発表されました。さらに、トカラ列島、桜島、霧島などでの火山活動の活発化など、大規模自然災害への備えや発災後の対応などがこれまで以上に重要になっています。このような状況から、今年度は行政機関や港湾関係団体、マリコン、建設コンサルタントなどを対象に自然災害に対する正しい知識を理解し、防災・減災に対する意識向上を図ることを目的として、令和7年12月16日、福岡市において、「大規模自然災害に対する防災・減災講演会」を開催しました。本講演会は九州地方整備局の後援を受け、約100名の皆様にご出席いただきました。

講演会は、国土交通省九州地方整備局 副局長の酒井浩二様より、「国土技術政策総合研究所（横須賀）による能登半島地震の対応について」、また、九州大学地震火山観測研究センター長の松本聡様より、「九州地方の地震活動とその特徴」について、それぞれ貴重なご講演を賜りました。

~~~~~ 大規模自然災害に対する防災・減災講演会 次第 ~~~~~

日時：令和7年12月16日（火） 14:00～17:00

会場：TKP 博多駅筑紫口ビジネスセンター 701 号室

講演プログラム

<司会> NPO 法人 ジオセーフ事務局長 矢ヶ部 秀美

14:00～14:10 開会挨拶 NPO 法人 ジオセーフ 理事長 善 功企

14:10～15:20 講演 I

「国土技術政策総合研究所（横須賀）による

能登半島地震の対応について」

国土交通省 九州地方整備局 副局長 酒井 浩二

（元 国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部長）

～ 休憩 ～

15:30～16:40 講演 II

「九州地方の地震活動とその特徴」

九州大学 地震火山観測研究センター長 松本 聡

16:40～16:50 閉会挨拶 NPO 法人 ジオセーフ 監事 江頭 和彦

~~~~~ 講演の概要 ~~~~~

講演 I

「国土技術政策総合研究所（横須賀）による能登半島地震の対応について」

国土交通省 九州地方整備局 副局長 酒井 浩二

酒井副局長からは、前職であった国土技術政策総合研究所において指揮をとられた能登半島地震発災後の対応とその経験を踏まえた今後の災害対応あり方について、ご講演をいただきました。

国土技術政策総合研究所では、発災直後から港湾空港技術研究所と連携し、技術支援チームを組織して現地の港湾・空港施設の被災調査を実施しました。その調査を基に施設の利用可否判断や応急復旧に向けた技術支援が行われました。例えば、七尾港の矢田新さん橋では、被災状況や設計図書などを基に残存耐力を評価し、利用にあたっては、船舶は慎重に接岸すること、係留時は強風による牽引力増加に注意すること、エプロン上には重量物を載せないことなどの条件を付したうえで、災害支援物資の輸送活動が実施されました。

さらに、能登半島地震での対応を踏まえ、今後想定される東南海・南海地震などの広域的な災害に備え、地震後の施設点検にウエブカメラ映像を活用して、関係機関と被災情報を同時に共有しながら、施設の利用可否を判断する方法の提案や発災直後に岸壁の利用可否を迅速に判断するためのポイント等を整理したガイドラインの作成、岸壁の早期復旧を可能とする新たな耐震設計法の取り組みについても紹介されました。

講演 II

「九州地方の地震活動とその特徴」

九州大学 地震火山観測研究センター長 松本 聡

松本センター長からは、地震発生のメカニズムをはじめ、内陸型地震と海溝型地震の特徴や発生状況、九州において、これまで大きな被害をもたらした地震について、その特徴や今後の地震発生の可能性について、ご講演をいただきました。

地震は、断層に作用する力が断層の強さを上回った場合に発生し、断層の強さが大きいほど規模の大きな地震が発生しやすいこと、また、地震の規模が大きくなると断層が地表面に現れることなど基礎的な知見をわかりやすく解説されました。

九州には多くの活断層が存在し、その活動特性は地域によって異なること、陸のプレート内で発生する地震と沈み込むプレートの境界で発生する地震ではメカニズムが異なることが示されました。さらに、日向灘地震、熊本地震、福岡県西方沖地震などの事例紹介があり、福岡県西方沖地震断層と隣接する警固断層との境界付近では、近年、応力が変化しており、警固断層地震が発生する可能性が高まっていることが示唆されました。



会場の状況①



会場の状況②



開会の挨拶 ジオセーフ 善理事長



講演Ⅰ 九州地方整備局 酒井副局長



講演Ⅱ 九州大学 松本地震火山観測研究センター長



閉会の挨拶 ジオセーフ 江頭監事

## 2. 2026 海域港湾空港技術報告会（第13回）の開催

九州地方整備局港湾空港部が主催し、九州大学や研究機構ジオセーフなど10者が共催者となり、産学官が連携して毎年開催している報告会です。本報告会は全国的に高い評価を得ている最先端の技術開発の現状や九州・下関地区で取り組まれている最新技術の情報等を産学官でタイムリーに共有することで、課題解決に向けた技術開発の促進に寄与することを目的としています。

日 時 : 2026年2月27日(金) 13:30~17:00

開催方法 : 会場とWEB (Microsoft Teams) によるハイブリッド方式

会 場 : 九州大学医学部 百年講堂

主 催 : 九州地方整備局港湾空港部

共 催 : 九州大学大学院工学研究院

九州大学西部地区自然災害資料センター

(公社) 地盤工学会九州支部

(一財) 沿岸技術研究センター

(一財) 港湾空港総合技術センター

特定非営利活動法人研究機構ジオセーフ

博多港ふ頭株式会社

(一社) 日本埋立浚渫協会

(一社) 港湾空港技術コンサルタント協会

九州港湾空港建設 協会連合会

※参加者は、会場54名、webから41名の合計95名でした。



報告会の状況①



報告会の状況②

～～～ 報告会プログラム ～～～

◆開会式 13:30 ～ 13:40

- 開会挨拶 鈴木 崇弘 (九州地方整備局 港湾空港部長)  
<司会・進行> 工藤 寛之 (九州地方整備局 港湾空港部 港湾空港企画官)

第Ⅰ部 13:40 ～ 15:25 全国の先進的土木技術の紹介・注目度の高い技術的取り組みの紹介

- ICT技術を活用した消波工メンテナンスの設計・施工手法の確立に向けた取り組み  
第7回インフラメンテナンス大賞 受賞  
昇 悟志  
(株式会社不動テトラ 総合技術研究所 研究開発室第三研究開発グループ グループリーダー)

～ 質疑応答 ～

- 八代港大築島土砂処分場(中仕切堤)におけるカルシア改質土の冬季施工について  
令和6年度地盤工学会 九州支部 技術賞 受賞  
澤口 大夢  
(五洋建設株式会社 土木部門 環境事業部)

～ 質疑応答 ～

- 受入土量の変更に対応した大規模土砂処分場のフレキシブルな埋立技術の開発  
令和6年度地盤工学会賞 技術業績賞 受賞  
片桐 雅明  
(株式会社 日建設計 都市・社会基盤部門 シビルグループ エンジニアリング設計部 アソシエイト)

～ 質疑応答 ～

～ 休憩 ～

第Ⅱ部 15:40 ～ 16:50 産官学の技術展望

- 九州沿岸の高潮特性と将来の港湾・沿岸防災で考慮すべき視点  
井手 喜彦  
(九州大学 工学研究院 社会基盤部門 助教)
- カーボンニュートラルレポートの取り組みとBCPの両立  
重富 康文  
(博多港ふ頭株式会社 コンテナ事業部長)
- 年最大クラスの発生波浪と地球規模の気候振動との関係～北海道太平洋沿岸海域を対象として  
平澤 充成  
(一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センター 審議役)

～ 質疑応答 ～

◆閉会式 16:50 ～ 17:00

- 閉会挨拶 濱田 秀則 (九州大学大学院 工学研究院 社会基盤部門 教授)